

2024年7月8日

学校法人三幸学園
福岡こども専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 松嶋 光子

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 松嶋 光子 (株式会社アイگران アイگران保育園大宮 園長)
- ② 新谷 実紀 (2023年度卒業生)
- ③ 生沼 作都 (飛鳥未来きずな高等学校 福岡天神キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月29日 (会場 福岡こども専門学校 201教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 福岡こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 石川 好典・林 成志

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 松嶋 光子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・実践的教育の確立

→ボランティア活動と実践的授業を積極導入することで業界に求められる人材の育成を図る。

・学生指導の見直し

→現場の求めている人材を育成する為に企業や園への訪問を強化し現場の声を教育に反映。

② 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

・ボランティア活動においては、在学中に多くの人と関わることで、相手の気持ちに気付くことができるようになる。そして相手の感情を感じ取ることができるようになる。保育現場ではこどもの気持ちや保護者の気持ちを察して気付いて行動することが求められるので、多くの人と関わる機会があるのは非常に良いと感じる。

<生沼委員>

・現場も学生も変わってきているように感じる。現場の声を教育に反映していくことはとても重要であると同時に変化に対応していく力が必要になってくる。

<新谷委員>

・実践教育が多くあり、就職後即戦力としての実践力が身についた。特に授業内で作成した制作物は勤務後では時間的に作ることができないので有効活用できている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・業界の現状理解とニーズを踏まえた学生育成・指導を行うこと
→「知る・理解する・実践する」までの授業・指導に偏り、「指導ができる」レベルまでの人材育成ができていない。

② 今後の改善方策

- ・保育現場への訪問強化を図り、業界のニーズに合わせた実践的な職業教育を確立させる。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

- ・完璧である必要はないので、たくさんチャレンジをして欲しい。スモールステップで成功体験と失敗体験があると就職した後も困難に立ち向かうことができ成長することができる。

<生沼委員>

- ・現場に出る前にどれだけ経験を積み、実践をしていたかで現場で発揮できる力が変わってくる。たくさん挑戦してたくさん失敗をすることが大事だと感じる。そういった活動を通してコミュニケーション力を伸ばして欲しい。

<新谷委員>

- ・実践の授業はもっと増やして欲しい。最初はうまくできずに、壁になるけれど回数をこなすことで実習や就職で活かすことができるようになる。多くの経験を積むことが大切だと感じる

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4

事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・ICT 環境の面で学生が学んできた環境と実習環境にギャップがあり、「書く」ことが目的となっている実習が多い。

② 今後の改善方策

・実習本来の目的を明確にし、目的が達成されるように実習の効率化をはかる。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

・保育現場ではアナログと ICT の業務割合は半々であるが、今後確実に ICT が進んでいく。実習生から実習日誌を WEB 化したいという声は現状ないが、本人が希望すれば実施可能な環境は揃っている。効率よく実習に取り組めれば、こどもたちと関わる時間が増えるので、積極的に ICT 化に取り組んで欲しい。今後も、実習に関して目的を見失うことなく、学校で学んだことを実践する時間、チャレンジする時間となるように現場と学校で連携していく必要がある。

<生沼委員>

・ICT 化はどの分野でも進んでおり、今後さらに進んでいく。高校までに ICT を通した学びに慣れている生徒が高等教育機関に進学していく。そういった意味でも教育の進化改善は積極的に取り組んで欲しい。

<新谷委員>

・実習日誌を現場で見返すことはない。実習日誌が1日4枚指定だった為、寝るのは2時で起きるのが6時。日誌のストレスが軽減されると、こどもと関わる機会と体調が整い、学びが増えるように感じる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4

目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・時代のニーズに合ったキャリア教育、実践的な職業教育

② 今後の改善方策

・現場の声を教育に活かすための園訪問強化

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

・保育現場は働きやすい労働環境になっているという現状を、保育業界希望者にもっと伝えていきたい。労働環境に拘る気持ちは理解できるが、保育業界のやりがいについて伝えていくことで、仕事を通して学ぶことに気付いてもらえるように取り組む必要がある。

<生沼委員>

・就職活動時期が早まっているように感じる。学生情報の連携を取ることができれば就職後のギャップなども軽減し、有効な就職活動や就職準備をすることができるのではないかと。

<新谷委員>

・実習を通して就職が決まることが多々あるので、就職支援というよりも実習から就職への支援が大切だと感じる。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

・業界の最新情報や働く上で必要とされる力を理解し、リアルタイムで適切に伝えること

② 今後の改善方策

・園訪問強化に伴い、現場より得た情報を授業や学校生活の中で積極的に学生に伝達する
 ・計画的な卒業生訪問を実施し、在校生指導と現場ニーズの相違がないか常に見直しを図る

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

・卒業生を受け入れた園と学校とがコミュニケーションを取って、人材のサポートをしていきたい。

<生沼委員>

・新卒職員の気質が変わってきているように感じる。学生を見ているもそうだが、自信を持って自信がつくのも早い。一方で折れるのも早い傾向がある。学生の傾向を理解する必要がある。

<新谷委員>

・卒業後、各現場で活躍している卒業生と関わりが持てると、他の園のやり方など学ぶことができるので機会があれば嬉しい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	2
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・実践教育の場の確保不足

→一部保育現場との連携に偏りがあるため、全学生へ提供へと繋がる実践教育の場の拡充を図ることが必要。

② 今後の改善方策

・保育園・幼稚園との連携に留まらず、地域の子育て世代のニーズに合った新たな実践の場を創造する

・実践教育の場の拡充に伴う、教職員側の育成・指導の認識統一およびスキルアップを図る

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

・中学高校の時期をコロナ禍で過ごした影響があるのかもしれないが、コミュニケーションの取り方が変化しているように感じる。挨拶や掃除など、当たり前のことが当たり前に行えることが大切。

<生沼委員>

・進路や就職に対する支援は学校全体で実施していく半面、個別での支援を求めている学生は多いように感じる。

<新谷委員>

・就職活動は、エリア毎に地区の担当教員がサポートしてくださっている。個別で相談も可能な為安心できる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・学習形態に合わせた通信環境の十分な確保
- ・学外活動実施に伴う時間の確保

② 今後の改善方策

- ・通信環境の整備および学園情報システム部との連携を強化し、適切な学習環境を担保
- ・一部学科学年にて週4登校とし、自主実習やインターンシップ等が実施できる環境の提供

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<松嶋委員>

- ・現場でも通信環境は大事でそれらを扱うテラシーと経験も必要な為、学生の内に触れておくべきだと感じる。

<生沼委員>

- ・通信制高校のニーズも高まり、平日 5 日間登校がベースではなくなっている部分がある。週 4 登校とし、平日の中で自由な時間を使えるのは学生にとっても非常に良い取り組みだと感じる。

<新谷委員>

- ・オンライン授業は自身で学んでいくので、自主性や計画力が身につく。ただ意図目的が伝わってない場合がある。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・福岡県専修学校各種学校協会の規定に従い、適正に実施

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・コンプライアンス、個人情報管理に関する更なる理解促進

② 今後の改善方策

- ・教職員全員を対象としたコンプライアンス研修を実例紹介も併せて実施

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・保育園、幼稚園に限らず、地域企業との連携の強化および地域に根付いた学校運営

② 今後の改善方策

・幼児教育や保育関連企業への積極的訪問且つ新規産学連携の確立

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜松嶋委員＞

・ボランティア活動は学生にとっても主催者にとっても重要だと感じる。ぜひ学生時代に多くのボランティア活動に参加して経験を積んでほしい。

＜生沼委員＞

・子どもだけでなく大人と関われるボランティア活動は学生にとって多くを学ぶ場となる。積極的に参加してほしい。

＜新谷委員＞

・ボランティア活動から多くの学びが得られる。経験することで前に立つ疑似体験ができたり、園の行事で計画的に進めることができたり、メリッதாகないと感じる。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

＜松嶋委員＞

・変化している時代で環境が変わり、子どもたちや保護者も変わってきている。“今”求められていることもそうだが、未来を見据えて“これから”求められる人材になって、保育士としてキラキラ輝きながら働く人が増えてほしいと願っている。ぜひ現場の声を聴いて今後も学校運営に活かしてほしい。

＜生沼委員＞

・多くの養成校がある中で、学生が自ら学ぶ教育の環境が整っていて素晴らしいと感じる。社会に出てからぶつかる壁をぜひ学生の内に何度でもぶつかって成長して欲しい。学校行事やボランティア活動には今後も力を入れて取り組んで、実践力を高めて社会に出て活躍してほしい。

＜新谷委員＞

・多くの学びを得る中で、やはり現場で使えるのか、実践できるのが大事だと今になって感じる。経験を積むのももちろんだが、その経験を活かす場、実践する場をもっとたくさん設けて学生支援に取り組んでほしい。

< 林副校長 >

・時代のニーズに合った“実践的な職業教育”の確立が必要と考える。社会のニーズに対する即応性を大切にし、職業能力等に特化した実学の学校を目指すことで専門学校として価値を見出していきたい。